

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 6 回 相模原市地域交通活性化協議会		
事務局 (担当課)	都市建設局 まちづくり推進部 交通政策課 電話 042-769-1395 (直通)		
開催日時	令和 8 年 5 月 1 3 日 (水) 午後 3 時 0 0 分～午後 4 時 3 0 分		
開催場所	相模原市立産業会館 3 階 大研修室		
出席者	委 員	2 3 人 (別紙のとおり)	
	その他	0 人	
	事務局	1 2 人 (交通政策課長外 1 1 人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長、副会長、監事の選任について</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 令和 7 年度相模原市地域交通活性化協議会決算(案)について</p> <p>(2) 地域公共交通確保維持改善事業について</p> <p>(3) 中山間地域におけるコミュニティ交通再編の取組について</p> <p>(4) 公共ライドシェアの運行について</p> <p>(5) 相模台地区、東林地区における「ミニバス」運行の実証実験について</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 令和 7 年度 コミュニティ交通の運行実績について</p> <p>(2) 新しい地域公共交通計画の策定に向けた検討について</p> <p>(3) 路線バスの退出等意向申出について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>		

議 事 の 要 旨

1 開会

2 会長、副会長、監事の選任について

委員の互選により、会長に岡村委員、副会長に梶田委員が選出された。

会長の指名により、監事に小堤委員、大島委員が選出された。

3 協議事項

(1) 令和7年度相模原市地域交通活性化協議会決算(案)について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(意見なし)

(結果) 出席委員の全会一致で同意。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(大島委員)UDタクシーの要望台数については事業者へ確認中とのことだが、これはいつ頃までに明らかになるか。

(事務局)現在、各タクシー事業者へ照会を行っている最中で、今月中にはまとまるかと思うので、後日整理をして、分かり次第共有させていただければと思う。

(結果) 出席委員の全会一致で同意。

(3) 中山間地域におけるコミュニティ交通再編の取組について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(橋山委員)現在、乗合タクシーの実証運行を行っているが、その最中に路線バスも一緒に運行されていると、地域の交通手段の転換が進まないことを踏まえ、従前から相模原市と協議しており、和田線を中心に6月1日にダイヤ改正をさせていただく予定である。また、今後においても、藤野やまなみ温泉方面の路線を含めたダイヤ改正を進めさせていただく所存である。

(結果)出席委員の全会一致で同意。

(4)公共ライドシェアの運行について

(石原委員)観光協会の立場から、これまでも観光客の足について発言させていただいている。また、市の観光部局が陣馬山の登山客のためにバスを用意する取組には観光協会も関わっている。この登山バスとルートが重なる部分もあるが、棲み分けや共存の考え方について確認させていただきたい。

(事務局)本市の観光政策課が5月上旬から6月中旬まで、事前予約型で800円/回の登山バスを走らせる取組をスタートしたところだが、公共ライドシェアはこれと重複しないように、登山バスの運行が終了した後の7月から走らせる予定である。また、土休日に公共ライドシェアでスクールバスを走らせると説明したが、ドライバー確保が難航しているところである。登山バスは春・秋の2シーズンのみとなっているが、この時期以外にも観光ニーズがあると思っているので、登山バスが走っていない時期に関してもドライバーを確保して、公共ライドシェアを運行したいと考えているので、常に観光政策課と調整しながら運行していきたい。

(橋山委員)停留所の考え方について、路線バスの停留所を兼ねる場合、公安委員会等との協議が必要であろうが、公共ライドシェアで運行する場合にも協議会を開くという認識でよいか。併せて、無償で7月から運行を始めるとして、この場合も公安委員会による公示が必要であると思われるが、これについてのスケジュールを教えてください。

(事務局)ご指摘のとおり、7月の運行開始時点までには公安委員会に公示をいただく必要があると認識している。神奈川県警察本部に対しては、事前に情報提供させていただいており、現在公示に向けた調整をしている状況で、7月までに完了させる予定である。

(大島委員)今回、公共ライドシェアで走らせる中で、乗合タクシーの供給量が不足しているため、実質的な交通空白となる見込みであると記載されているが、乗合タクシーの供給量が不足する原因は車両的な問題なのか。

(事務局)原因は2点あり、藤野駅から和田方面に関しては藤野交通に運行をお願いしているところだが、藤野交通が朝8時から営業開始ということがあり、朝の運行を行っていない現状が和田方面の課題である。藤野やまなみ温泉方面については、YM交通に運行をお願いしているが、実際に10月から実証運行を始めてみたところダイヤに無理があったため、ゆとりのあるダイヤに変更したことで、現在、路線バ

スを利用していただいている方を全て賄う供給量が提供できていないという状況にある。こうした2つの理由により、藤野駅を中心とした北と南で交通空白が生じている状況である。

(大島委員) 緑ナンバーの車両では対応が難しいということか。

(事務局) その通りである。ドライバーも不足している中、現在、運行しているスクールバスのドライバーに1時間早く走っていただくことでYM交通と調整している。

(小堤委員) 土休日は予約制を想定しているとのことだが、登録市民も予約を行う必要があるのか。また、土休日にかかわらず7～8月の登山客が多く訪れる繁忙期も予約が必要となるのか。それから、藤野駅から和田までの間で回送する箇所があるが、何らかの事情がある利用客がいた場合等に、実走するといった柔軟な対応が可能かどうか教えていただきたい。

(事務局) 土休日は、中型バスもしくはマイクロバスで運行するが、路線バスと違い、立ち乗りができず席数と同人数しか乗車できないことから、予約制にしないと乗りこぼしが発生する可能性がある。また、通常路線バスと違い、乗車口が1箇所しかなく、ドライバーが乗客対応をコントロールすることが難しくなるため、現場での混乱を防ぐための措置として予約制とする。土休日に関しては、地域の方を含めて、現在の乗合タクシーの予約システムによる予約制としていきたい。平日については、車両から溢れる程のニーズは想定していないため、路線バスと同じような定時定路線型として、バス停で待っていれば乗車できる利用形態にさせていただきたいと考えている。運行ダイヤについては、現時点での想定案であることをご理解いただき、今後路線バスや乗合タクシーの利用状況等を確認し、状況に応じたより良い運行内容を検討していきたいと考えている。

(杉野委員) 公共ライドシェアと登山バスの両方が運行されるとのことだが、観光客はどちらも予約してよいのか。また、公共ライドシェアは市民以外が900円に対し、登山バスは800円となっており、どちらかに人気が出ても問題はないのかを伺いたい。

(事務局) 登山バスは繁忙期に運行するのに対し、公共ライドシェアは登山バスの秋冬の運行が終了した後の実施を考えているため重複はしない。平日については先程の説明のとおり、現在運行しているスクールバスのドライバーに1時間早く走ってもらうことで、ドライバー確保の目途が立っている状況である。一方で土休日について

では、そもそもスクールバスが走っておらず、新たにドライバーを確保する必要があるため、平日と同じタイミングでの運行開始が難しいこと、また5月と9月に運行を予定している登山バスの予約状況等を踏まえた上で、公共ライドシェアの土休日運行を開始したいと考えている。公共ライドシェアと登山バスとの棲み分けについては、市の観光政策課と連携を取りながら、地域での混乱が生まれないよう取り扱っていきたいと考えている。

(杉野委員) 9～12月に運行する登山バスの実証実験の結果が出るのは12月だが、公共ライドシェアは12月から走らせるとなると、登山バスの実証実験の経過はいつの段階で判断するのか。

(事務局) 正直なところ、土休日のドライバー確保が本当に厳しい状態である。何とか12月から公共ライドシェアをスタートさせたいと考えているが、土休日に関して、神奈川中央交通の路線が来年度無くなる中で、現在、藤野交通の7人乗りの乗合タクシーを1台しか確保していない状況を踏まえると、公共ライドシェアは必ず必要だと思っている。登山バスと土休日の公共ライドシェアは、どういう競争が起こるか分からないが、必ず手立てが必要だと考えているので、来年度も引き続き公共ライドシェアに取り組んでいきたいと考えている。

(杉野委員) 土休日は平日とは別物と考え、観光客の需要を見ながらダイヤやルート等の運行体制を考えていくということか。

(事務局) その通りである。

(石原委員) 市の観光部局が行う登山バスの実証運行は、春と秋の繁忙期をベースとしているが、陣馬山の登山客はこの時期以外にもいることから、実証運行の結果によっては運行日を増やす可能性も考えていた。公共ライドシェアとの棲み分けの問題でスキームが違ってても、観光客としてはどちらかに乗れば良いと考えているので、2通りの予約方法がある中で、混乱の無いよう登山バスの実証運行の状況も見据えながら、市の観光部局と連携を図っていただきたい。

(事務局) 杉野委員が指摘された通り、1人のお客さんに対して、登山バスと公共ライドシェアの両方が走っているというのはもったいない状況だと思っているので、今後はどちらかで対応していくものと考えている。また、冒頭の協議であった通り、6月から神奈川中央交通の和田方面の土休日の便の廃止を受け、6月の登山バスの実証運行の結果は非常に重要になってくることから、情報を得ながら、今後どちら

で対応するのか検討して参りたい。

(金子委員)土休日について、登山客の利用を想定しているようだが、地元の方は利用しないのか。

(事務局)現状、朝から登山客が何十人もバスを利用しており、通常の乗合タクシーでは捌ききれないと想定していることから、公共ライドシェアでの対応を考えている。なお、藤野地区に関しては、土休日も乗合タクシーを運行しているので、そちらで移動いただけると考えている。

(結果) 出席委員の全会一致で同意。

(5)相模台地区、東林地区における「ミニバス」運行の実証実験について
協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(戸室委員)5月13日現在での実験モニターの応募状況について伺う。

(事務局)本日現在、約10人程度という状況である。現在、自治会へ回覧を回しており、来週末には地域の自治会の会合に直接参加して説明を行う。また、昨日には相模台・東林まちづくりセンターで地域向けの説明会を行ったところ、7人が参加し、そのうち3人の申し込みがあった。これからも草の根の取り組みを行い、何とか100人集めたいと思っている。

(大島委員)実験メンバーはモニターとは別に募集しているのか。

(事務局)実験モニターと併せて募集している。

(大島委員)最終的な運行ルートの決定はいつ頃になるか。

(事務局)現在、実際に運行を担うタクシー事業者と調整を進めている最中で、小田急相模原駅前の混雑の激しさを懸念する意見をいただいている。ここの箇所ルートについて引き続き調整が必要だが、それ以外のルートは確定している。5月中には最終的なルートを固めてお示しする。

(大島委員)補正予算について、収入の部における雑収入500,000円をメンバー

料(実験モニター) 5,000円×100人として予算立てしているが、7,200円の実験メンバーは入ってこないのか。

(事務局)基本的に金額としては、7,200円の実験メンバーの方が増えれば、その分収入が増となるが、我々としては乗っていただいてアンケートに答えていただくことで、実証実験の精度を上げていきたいという思いがあるため、予算の中では皆さんが実験モニターとしてご登録いただいた場合を想定している。応募人数が足りなければ下振れが起き、7,200円の実験メンバーの方が多ければ、上振れも起きることをご承知いただければと思う。

(小堤委員)収入が下振れとなった場合には、運行を委託するタクシー事業者へ支払う事業費を変更するのか。もしくは下振れ分を市で負担するのか。

(事務局)メンバー料の増減によって、事業者への支払額を変更することはない。メンバーが集まっても集まらなくても運行を実施すれば、決まった契約金額をお支払いすることになる。ただ、極端にメンバーの集まりが悪いという状況であれば、実施時期を少し後ろに遅らせて、メンバーをしっかりと集めた上で実施する可能性はあるが、夏の暑い時期等、外出が減ってしまう時期にかかってしまう可能性があるため、当初想定している時期に実施できるよう、地域に説明をしているところである。

(大島委員)現在、実験メンバー・モニター合わせて約10人ということだが、時間もほとんどない中で、利用者側にとって金額の負担がかなり大きいと思われるが、値下げを行う可能性はあるか。

(事務局)金額の多寡については個人の判断があると思うが、我々としては金額を下げるつもりはないので、5,000円もしくは7,200円でご賛同いただける方をしっかりと集めていくという思いである。

(大島委員)令和6年度に実施した乗合タクシーは予約制ということもあり、利用者がかなり少なかった。今回も同じ結果にならないよう、走らせるのであればある程度の人数に乗っていただきたいと思っている。

(事務局)2、3月に街頭でのチラシ配布や自治会へ2万枚のチラシを配布し、860人からアンケートの回答があった。頑張れば必ずお客さんが付いてくると思っているので、何とかメンバーを集めたいと思う。

(結果) 出席委員の全会一致で同意。

4 報告事項

(1) 令和7年度 コミュニティ交通の運行実績について

報告事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(2) 新しい地域公共交通計画の策定に向けた検討について

報告事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(3) 路線バスの退出等意向申出について

報告事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

5 その他

橋山委員から三ヶ木～半原線に関する路線のあり方について、今後、相模原市と協議予定である旨を情報提供いただいた。

6 閉会

以 上

相模原市地域交通活性化協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	岡村 敏之	東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	会長	出席
2	梶田 佳孝	東海大学 建築都市学部 土木工学科 教授	副会長	出席
3	小堤 健司	一般社団法人神奈川県バス協会 常務理事		出席
4	大畠 雄作	一般社団法人神奈川県タクシー協会 相模支部 常任理事		出席
5	関 啓充	東日本旅客鉄道株式会社横浜支社 企画総務部 企画部長	(代理出席) 副課長 遠藤 敦子	出席
6	疋田 力	東日本旅客鉄道株式会社八王子支社 企画部長	(代理出席) 企画総務部 経営戦略ユニット 主務 名取 弘登	出席
7	八山 晋一郎	小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部 交通企画部 設備計画担当 課長		欠席
8	濁澤 雅	京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部 計画担当 課長	(代理出席) 主任事務員 野村 圭佑	出席
9	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 計画担当課長		出席
10	三浦 裕介	京王電鉄バス株式会社 運輸営業部 乗合事業担当 課長	(代理出席) 課長補佐 山田 竜矢	出席
11	米山 淳	富士急バス株式会社 業務部長	(代理出席) 上野原営業所長 内藤 克彦	出席
12	松岡 里奈	国土交通省関東地方整備局 建政部 都市整備課長		出席
13	柳田 眞由美	国土交通省関東地方整備局 相武国道事務所長	(代理出席) 計画課 企画係長 梶谷 裕子	出席
14	藤本 直子	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官(総務企画担当)	(代理出席) 首席運輸企画専門官 (輸送担当) 春原 和洋	出席
15	平田 修	神奈川県警察本部 交通部交通規制課 都市交通対策室長	(代理出席) 都市交通対策室 係長 門多 佑典	出席

16	河津 智則	神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課 副課長	(代理出席) 副技幹 田辺 稔史	出席
17	高橋 和彦	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局次長		欠席
18	森久保 高弘	相模原市自治会連合会 監事		欠席
19	渡貫 隆	相模原商工会議所 事務局長兼総務部長		出席
20	杉野 孝幸	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 常務理事		出席
21	石原 朗	公益社団法人相模原市観光協会 専務理事		出席
22	金子 義浩	公募市民		出席
23	戸室 寛	公募市民		出席
24	和田 昌人	公募市民		出席
25	高木 理史	相模原市 都市建設局 道路部長		出席
26	太田 修二	相模原市 都市建設局 まちづくり推進部長		出席